



「外国ルーツ青少年未来創造事業」 における企業との連携 ー住友商事による人的支援活動の例からー

2020.11.11

（公財）日本国際交流センター

シニア・プログラム・オフィサー 李惠珍（イ・ヘジン）

目次

1. 日本国際交流センターについて
2. 「外国ルーツ青少年未来創造事業」について
3. 住友商事（株）とのパートナーシップについて

1. 日本国際交流センターについて

日本国際交流センター（JCIE）は、

東京とニューヨークを拠点に、民間レベルでの政策対話と国際協力を推進する公益法人。

民間外交のパイオニアとして、1970年の設立以来、非政府・非営利の立場からグローバルな知的交流事業を実施。

2020年外交・安全保障、民主化とガバナンス、グローバルヘルス（国際保健）、女性のエンパワメント、グローバル化と外国人財等、多角的なテーマに取り組む。

2. 「外国ルーツ青少年 未来創造事業」 について

◆「外国ルーツ青少年未来創造事業」

・外国ルーツ青少年を取り巻く現状・課題

→教育システムへのアクセスおよび支援の質、低学歴・不安定就労、限られた社会との接点など

・目標

→外国ルーツ青少年が日本社会から分離・分断され、社会的に孤立することなく、日本社会へのスムーズな移行を実現し、安定な地位を達成することができるよう、地域社会における支援体制の整備や制度的基盤作り等を推進

・助成事業（2020年4月～2023年3月）

→外国ルーツ青少年が必要とする学習支援、就労支援などの活動を行う

「7事業（8団体）」へ助成(総額約1.8億円)

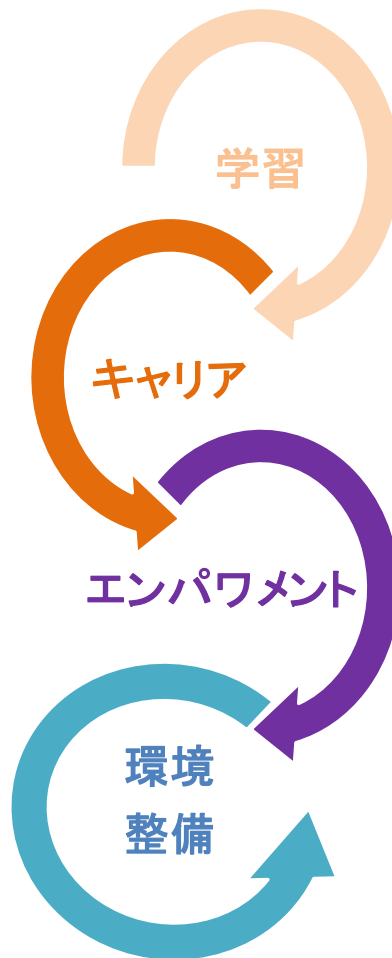
・啓発、アドボカシー活動

→外国ルーツ青少年に関する認識の向上と制度改革等を目指した啓発・アドボカシー活動を通じて、外国ルーツ青少年が日本社会で活躍できる制度的基盤作りに貢献

◆事業の4つの軸

(アウトプットの例)

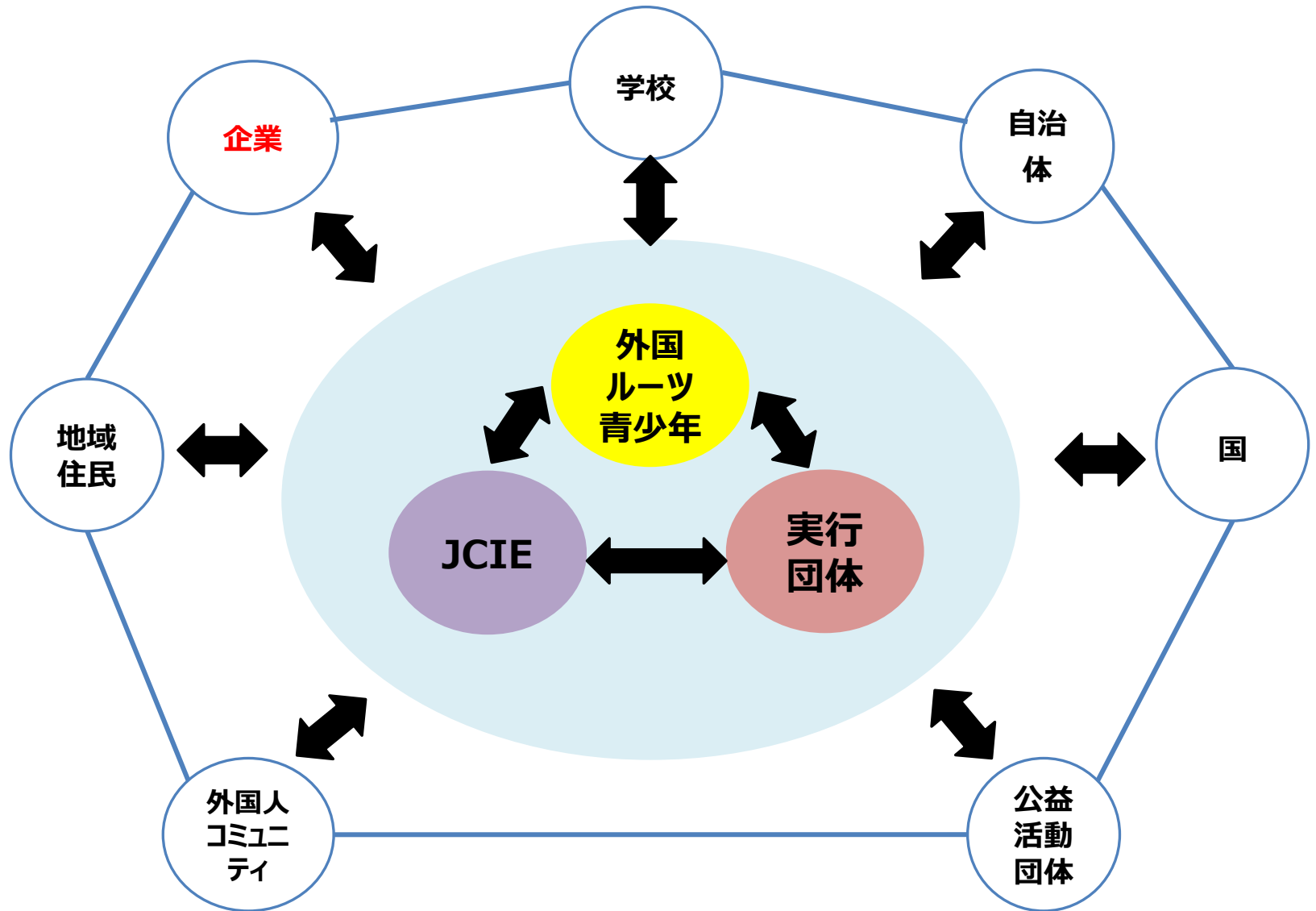
- ・日本語教室→300回：1,200名
- ・学習支援→2,100回：54,000名
- ・相談会→6回:360名
- ・進学・就労指導→20回：800名
- ・資格・就労講座→200回：6,500名
- ・キャリア体験→4回以上：200名
- ・関連活動・講座の参加者→1,500名
- ・相談者→1,200名
- ・アイデンティティ形成→7,000名
- ・情報発信・会員→800名
- ・新規の支援団体→35団体
- ・新規の支援者→750名
- ・成果発信→20回・12,000名



(短期アウトカム为例)

- ・日本語能力の向上
- ・入学・進学復学者数の増加
- ・学力の向上
- ・キャリア形成の基知識獲得
- ・キャリアの具体化（進学・就労）
- ・プログラムに関わる青少年の増加
- ・ルーツに対する肯定的認識の向上
- ・支援者・団体の増加
- ・地域における理解の向上
- ・ステークホルダーとの連携の増加

◆事業としてのコミュニティづくり



3. 住友商事（株）との パートナーシップについて

◆概要①

2019年12月	<p>JANPIAによる経団連1%クラブでの休眠預金活用事業の説明</p> <p>：住友商事の100周年記念社会貢献活動プログラム「100SEED」のうち「多文化共生社会を目指す教育支援」と、JCIEの「外国ルーツ青少年未来創造事業」についての意見交換</p>
2020年2月	<p>JCIEによる助成公募・内定団体の決定</p> <p>：支援先団体（助成採択団体）のニーズを踏まえて、専門家が対応すべき領域と住友商事が携わる領域を切り分けたうえで、住友商事からの社員派遣による支援活動（人的支援）を行うことで合意</p> <p>→企業による人的支援などの社会貢献活動を、現場のニーズに沿ってより効率的かつ効果的に行うには、支援分野や市民公益活動についての専門性と支援先のニーズ把握やコーディネーションが重要</p>

◆概要②

<p>2020年3月～ 2020年6月</p>	<ul style="list-style-type: none">・外国ルーツ青少年未来創造事業の助成対象事業決定（5月）・実行団体への支援ニーズ調査（アンケート調査及びヒアリング）・住友商事による人的支援活動の内容・規模・スケジュール等の調整 <p>→支援先団体のニーズ・組織実情とプロボノの業務経験・スキル等のミスマッチを避けるための調査・把握が重要</p>
<p>2020年7月</p>	<ul style="list-style-type: none">・住友商事社員を対象とした、外国人政策と外国ルーツ青少年についてのセミナー開催（200名以上が参加） <p>→サポート活動に携わるには、日本における外国人政策と外国ルーツ青少年のおかれた状況等への理解が不可欠</p>

◆概要③

<p>2020年8月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・住友商事におけるプロボノ型活動の参加者募集 ・JCIEによる説明会開催（事業説明、支援先団体紹介、団体の支援ニーズと支援活動の紹介など）
<p>2020年9月～10月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・応募者の希望と団体ニーズのマッチング（第一期：21名） ・サポート参加者を対象としたオリエンテーションの実施（プログラムの進め方、市民公益活動団体との協働の在り方、チームビルディングなど） ・各支援先団体とのキックオフミーティングの実施（支援先の活動内容、課題・ニーズの具体化、課題解決に向けて成果物の仮説の共有、スケジュール確認など） <p>→支援先への理解や、課題解決のためのサポートの具体的なイメージ作り、サポートの方法論への理解、支援活動と事業全体・各団体のアウトカムとのリンクなど、単なる「個別の活動」に終わらないための課題・目標の「整理・考察・設定・共有」が重要</p>

◆スタート地点に立って

・ 中間支援団体の役割

- 協働の成果をその分野全体の底上げへとつないでいくこと
- 新たな支援・連携を呼び込むこと
- ニーズ把握・マッチング・伴走支援と合わせた、立ち止まった支援を行うこと

・ 企業と実行団体による「協働」

- 社会課題についての理解促進（当事者の観点から問題・課題を理解する）
- 一方通行にならない（社会的インパクトの拡大、社会課題の見える化、啓発）
- プロセスの中でチームとしてつながり、「誰が、何を、どうする」という行動計画の共有